

締太鼓のお手入れ・保管方法について



本資料では、文化庁 邦楽普及拡大推進事業で貸与している締太鼓を保管場所から移動して演奏できるまで、演奏終了後、締太鼓を保管するまでのお手入れ・保管方法を解説します。正しいお手入れ・保管方法を身に付け、大切な楽器と長く付き合いましょう！

締太鼓について学ぼう

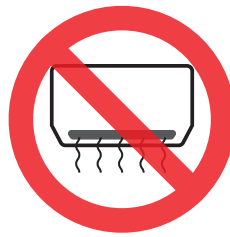
締太鼓は、自然の材料を使って製造されている、非常にデリケートな楽器です。ぶつけたり、落としたりすると、破損してしまいます。取り扱いには十分に気をつけ、正しいお手入れ・保管方法を身につけましょう。

湿気(水分)には要注意!



締太鼓が濡れてしまったら、乾いた布で水分を拭き取り、陰干しをして乾かしてから保管してください。

空調*が直接 当たる場所はNG!



寒暖差の激しい場所や湿度が高すぎたり、乾燥しすぎたりした環境は、締太鼓にとっては大敵です。空調が直接締太鼓に当たると、乾燥して傷んでしまうので、避けましょう。

*空調には、エアコンや扇風機、ストーブなどが含まれます。

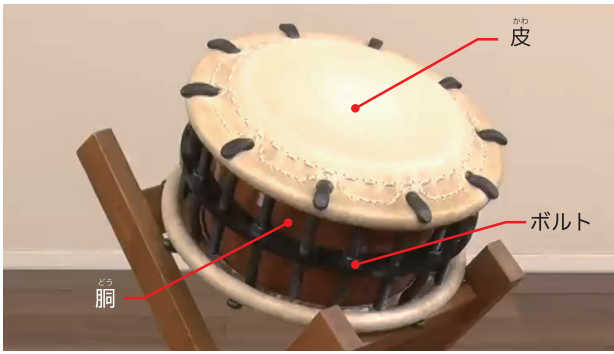
直射日光が 当たる場所はNG!



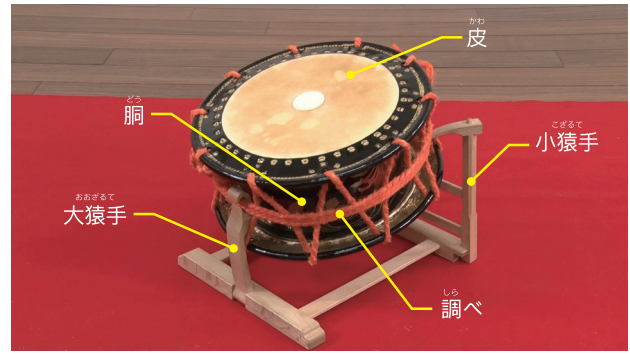
空調と同じように、太陽の光が直接締太鼓に当たると、乾燥して傷んでしまいます。直射日光が当たる場所での保管は避けましょう。

締太鼓の各部位の名称

祭礼用締太鼓(ボルト締めタイプ)

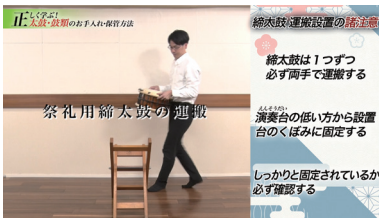


長唄締太鼓(紐締めタイプ)



締太鼓のお手入れ・保管方法

祭礼用締太鼓の設置と運搬



1. 運搬の時は、ボルトを持ってください。

ボルトを持って運搬します。

複数台まとめて運搬はせず、1台ずつ運搬するようにしてください。



2. 祭礼用締太鼓のボルトを締め上げます。

祭礼用締太鼓は、皮を緩めて保管しているのので、演奏前にボルトを締め上げる必要があります。

ボルトの締め上げは、水平な場所に毛布などを敷き、その上で、祭礼用締太鼓を横向きに置き、太ももで固定し、全てのボルトを均等に締めていってください。

なお、ボルトの締め具合は、講師の先生などに確認してください。



3. 水平な場所に演奏台を設置します。

祭礼用締太鼓を演奏台に載せる前に、演奏台の両脇にあるナットが締まっているか、演奏台にぐらつきがないかをしっかり確認してください。



4. 演奏台に祭礼用締太鼓を載せます。

演奏台には、傾斜があります。

高くなっている部分を観客側に向けて置いてください。

載せる時は、低くなっている方から、ゆっくりと置きます。

祭礼用締太鼓を演奏台に載せたら、しっかりくぼみにはまっていて安定しているか、左右に揺らすなどして、確認してください。

長唄締太鼓の設置と運搬



1. 運搬の時は、専用ケースに入れてください。
専用ケースに入れて運搬します。
複数台まとめて運搬はせず、1台ずつ運搬するようにしてください。



2. 演奏台に長唄締太鼓を載せます。
長唄締太鼓を演奏台に置く時は、3箇所ある猿手に調べを引っ掛けます。
最初に大猿手を、その後に2つの小猿手の順に、調べを引っ掛けます。
調べを演奏台に引っ掛ける時は、調べをしっかりと持って行ってください。
なお、調べを引っ掛ける位置は、流派などによって異なりますので、講師の先生に確認してください。

以上で、締太鼓を演奏できる状態になりました。

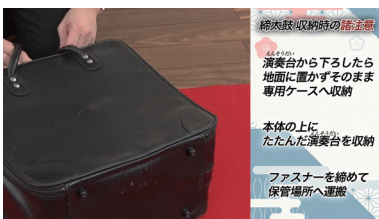
祭礼用締太鼓のお手入れと保管方法



1. 祭礼用締太鼓を演奏台から下ろし、汚れを落とします。
はじめに、毛ばたきなどで、大きな目立つ汚れを落とし、その後に、必ず乾いた手ぬぐいで力を入れずに、撫でるように拭いてください。
円を描くように拭くことで、祭礼用締太鼓を傷つけることなく汚れを落とせます。
祭礼用締太鼓を拭く時にタオルを使用すると、タオルの繊維が皮に引っ掛かり、皮が傷ついてしまいます。
そのため、タオルではなく手ぬぐいを使用しましょう。



2. 祭礼用締太鼓のボルトを緩めます。
ボルトの締め上げ同様、水平な場所に毛布などを敷き、その上で全てのボルトを均等に緩めていきます。
ボルトを緩めすぎると、金具が動いてしまい、皮を傷めることにつながります。
ボルトを緩める回数は、講師の先生や楽器店と相談して、ルールを決めておくといでしょう。



3. 保管場所へ、締太鼓を運搬します。
運搬方法は、「祭礼用締太鼓の設置と運搬」の「手順1」を参考に行ってください。
また、締太鼓は、湿気や乾燥に弱いため、直射日光の当たらない、風通しの良い室内に保管するようにしてください。
締太鼓は、皮が他のものに触れないように注意して、打面を横向きにして保管してください。
なお、打面を下にして、締太鼓を重ねての保管は、絶対にしないでください。

長唄締太鼓のお手入れと保管方法



1. 長唄締太鼓を演奏台から外し、汚れを落とします。
長唄締太鼓を演奏台から外す時は、小猿手を外してから、大猿手を外します。
大猿手を外す時は、長唄締太鼓を持ち上げて、大猿手を軽くひねると外しやすいです。
なお、長唄締太鼓は、装飾が剥がれやすいので、手ぬぐいで拭き上げはせず、毛ばたきなどで汚れを落とすだけにしてください。
長唄締太鼓の場合、一度調べを緩めると、改めて締め上げるのが非常に困難です。
同じ音色で演奏を行うためにも、調べは緩めたりせず、そのまま保管しましょう。
長唄締太鼓の音色が変わったと感じたら、講師の先生または楽器店に、すぐに相談してください。

以上が、演奏終了後の締太鼓を保管するまでの流れとなります。

締太鼓のお手入れ・保管方法に関する注意点



1. 締太鼓が濡れてしまった時は、乾いた手ぬぐいで拭いてから陰干しをします。
太鼓に使われている木や皮は、水分と相性がよくありません。
太鼓が濡れてしまった場合は、乾いた手ぬぐいで水気をとってから、陰干しをして、完全に乾燥させてください。
早く乾かそうとドライヤーなどを使用するのは、絶対にやめてください。



2. 打面を直接、地面などにつけないようにしましょう。
太鼓の打面を地面などに直接触れさせると、打面に湿気がたまり、演奏できなくなる可能性があります。
太鼓同士を、直接重ねることも避けてください。
締太鼓を置く場合には、必ず横向きにして打面が地面に接しないように置きましょう。



3. アルコールや濡れた手ぬぐいでは、拭かないようにしましょう。
締太鼓についた汚れを落とすために水拭きしたり、アルコールなどを用いて拭いたりしてはいけません。

締太鼓のお手入れ・保管方法に関するその他の注意事項



1. 締太鼓を数か月間演奏しない場合は、空気に触れさせましょう。
数か月間演奏しない場合は、保管場所から出して、1時間程度、直射日光が当たらない室内で、自然な空気に太鼓に触れさせるようにしてください。
適切な保管環境については、楽器店に聞きましょう。



2. 不具合が発生しても、自分たちで補修や修理は、絶対にしないでください。
本資料に記載されている方法で、お手入れや保管をしても、締太鼓に傷がついたり、付属品が破損してしまう可能性があります。
そうした破損を自分たちで補修や修理をすると、場合によっては、更なる事故等につながるおそれがあります。
不具合が見つかったら、まずは楽器店に問い合わせましょう。

動画と本資料を使って、正しい締太鼓のお手入れ・保管方法を身につけ、より長い期間、演奏を楽しめるよう、日々の取り扱いを怠らないよう、心がけてください。

お手入れ・保管方法の動画はこちらから ▶▶▶



本資料は令和5年度 文化庁邦楽普及拡大推進事業により作成しています。